



2022年度JICA横浜 教師国内研修募集要項

SDGs

誰一人取り残さない

多文化共生

～日本人移民・日系人の経験から学ぶ～



応募締切
6/20 (月)
必着

対象教員

神奈川県および山梨県の教員

研修期間

2022年7月～2023年3月
全7回と国内フィールドワークを実施（予定）

主 催：独立行政法人国際協力機構 横浜センター（JICA横浜）
後 援：神奈川県教育委員会、山梨県教育委員会、
横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、
相模原市教育委員会

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

SDGs 誰一人取り残さない **多文化共生**

～日本人移民・日系人の経験から学ぶ～

「誰一人取り残さない」を掲げているSDGsは、決して他人事ではありません。私たちにとって身近な世界である教室でも、外国につながる子や、多様な背景、個性を持つ児童生徒たち、誰一人取り残さないために実践できる「何か」がきっとあるはず。異文化との出会い、葛藤、困難、協力、そして希望を経験してきた日本人移民・日系人を通して、多文化共生について一緒に考えてみませんか？

本研修のねらい

世界でも、地域でも、そして学校でも、多様な人々と共に生きるために必要なことの一つに、異なる文化や価値観を受容、尊重することが挙げられます。また、受容、尊重する過程で自分自身に気づいたり、自己肯定感が高まったりすることも期待できます。他者も自分も認めながら“誰一人取り残さない”世界づくりに積極的に参画する人が増えてほしいという願いのもと、本研修では、日本人移住者・日系人とSDGsを視座に、多文化共生社会の実現を目指し、教室から実践できる次代を担う子どもたちを育成することをねらいとします。

移住の足跡から多文化共生のヒントを

こんなことを一緒に考えてみませんか！？

- ✓ 「異なる文化を受容し、尊重し、それとの共生に向けて行動できる市民としての資質の育成」
- ✓ 「グローバルな移動とそれに伴う世界的な規模での相互依存関係と、一国内における多文化の共生」
- ✓ 「今日の多文化社会における人権や市民権のあり方」

『学習活動の手引き 海外移住資料館』森茂岳雄氏より引用

教師国内研修とは

教師国内研修は、講義、インタビュー、フィールドワーク等を実施し、その経験を国際理解教育・開発教育の実践に役立てていただくための研修プログラムです。（「教師海外研修」の代替え研修として実施いたします）

研修のゴール

日本から海外に渡った日本人移住者の歴史や、海外から日本に戻ってきた人々の暮らし等に触れることを通して、多文化共生について理解を深めていただきます。研修で得た知識や経験をもとに、「多文化共生」をテーマに、海外移住資料館等を活用した探究活動の作成を研修のゴールとします。
※参加者には、2月～3月に予定している報告会で研修の報告をしていただく予定です。

研修概要

	日程	テーマ	内容
1回目	7月16日	開発教育	「開発教育教員セミナー基礎編」への参加
2回目	7月30日	オリエンテーション	研修内容の確認 チームビルディング
3回目	8月6日	日本人移民・日系人	資料館見学、講義、教材体験
4回目	8月14日	SDGs	講義、ワークショップ体験
フィールドワーク	8/14～ 8/19のうち数日間	多文化共生	国内のフィールドワークを予定しています。 ※日程はコロナウイルスの感染拡大状況、参加者の都合にて調整します。
5回目	9月17日	日本人移民・日系人	海外在住日系人とのオンライン交流
6回目	10月22日	多文化共生	教材化の検討
-	11月～ 12月	各自授業実践	※11月～12月までの間に各自、所属先にて授業実践をしていただきます。
7回目	1月28日	多文化共生	教材化の検討
報告会	2月～ 3月	報告	※2月～3月に予定している報告会（半日）で研修の報告をしていただきます。

※研修プログラムはあくまでも現段階の予定です。諸事情により変更する場合がありますので、ご了承ください。
※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、オンライン実施になる場合もあります。

本研修の活用例

- ✓ 児童生徒と一緒に多文化共生について考える授業
- ✓ SDGsを視座にした多文化共生についての授業
- ✓ 「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」
- ✓ 資料館見学や資料を活用した探求学習
- ✓ 日本人移民、日系人について教科の単元
- ✓ 日系人など外国につながる子の歴史的背景を知る

参加費用

国内で行う研修プログラムに参加される際の食費、個人的費用についてはご負担いただきます。
国内フィールドワーク時の旅費/宿泊費、保険加入費はJICAが負担いたします。
※国内フィールドワークに係る宿泊施設および移動手段は、安全面等を考慮しJICAで手配決定します。

応募資格 ※次の条件をすべて満たす方

- ① 神奈川県および山梨県内の小学校・中学校・高等学校等に勤務する教員（公私問わず）、教育委員会の職員であること。
- ② 授業もしくはクラブ活動等で国際理解教育・開発教育を実践されている方、もしくは、研修後、本研修の経験を実践に活かせる方。
- ③ 本研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される研修プログラム、報告会に参加可能であること。
※WEBを活用したプログラムも実施予定のため、WEB会議に参加いただける環境が整っていることが条件となります。
- ④ 原則として、応募締切り時、満50歳以下であること。
- ⑤ 所属校の校長の推薦があること。
- ⑥ 教材づくり等、他の研修参加者と協働して研修に取り組めること。
- ⑦ 今後、JICAが実施するエッセイコンテスト等の開発教育支援事業に積極的に参加、協力可能なこと。
- ⑧ 過去に、教師海外研修に参加された経験がないこと。

募集人数・応募方法・締め切り

- 募集人数：7名程度（応募書類および面接にもとづき選考を行います）
- 応募方法：所定の応募用紙に必要事項をきれいに記入の上、下記JICA横浜開発教育教員向け研修運営事務局宛に郵送ください。

2022年6月20日（月）必着

お送りいただきました応募用紙及び写真は返却いたしませんので、予めご了承ください。
なお、応募用紙はJICA横浜のホームページからダウンロードしてください。

<https://www.jica.go.jp/yokohama/enterprise/kaihatsu/kokunaikenshu/index.html>



選考方法

一次選考（書類審査）と二次選考（オンライン面接審査）にもとづいて候補者を選抜します。

- ① 6月下旬：一次選考結果通知予定 ※可否によって連絡時期が異なることがあります。
- ② 7月初旬：二次選考（オンライン面接審査）実施予定（日時は当方から指定）
- ③ 7月初旬：二次選考結果通知予定 ※可否に関する照会は一切お答えできません。

⚠️ 注意事項 ⚠️

- ① 年次休暇・研修（職専免）等研修中のサービスの扱いは所属先の判断によりますので、ご自身でご確認ください。
- ② 本事業は研修であり、JICAにおける労災保険等の適用はありません。
- ③ 所属先の業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の業務上災害に対する補償措置を行ってください。尚、JICAは出張命令依頼書等の発出を行いません。
- ④ 研修の対象者として決定された場合においても、他の参加者の妨げになると判断された方、また、定められた活動に参加できない方については、研修対象者としての資格を失うことがあります。研修中に研修対象者としての資格を失った場合、キャンセル料等（交通費、旅費、保険料等）は、当該者の全額負担となります。今般のコロナウイルス感染拡大の状況によっては、研修内容の変更の場合もございます。
- ⑤ 本研修に参加頂いた場合でも、来年度以降のJICA教師海外研修への応募は可能です。

応募・お問い合わせ

E-mail : jica-yokohama@mediasoken.jp

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-14-4-4F

TEL : 0120-441-172 FAX : 03-5414-6510



※参加申し込みにおいて入手した個人情報、JICAが行う開発教育支援事業のみに使用いたします。
※業務の一部を株式会社メディア総合研究所に委託しています。